

## 時 範 記 永長二年冬上

平時範の日記『時範記』は『平右記』・『右御記』・『右大記』などとも呼ばれ、その記事が詳細なところから各種の部類記等に多く引用されているが、『時範記』としてある程度まとまった形での伝本は少ない。本紀要では、第十四・十七号に承徳三年春（九条家本）、第三十二号に承徳三年夏（東山御文庫本）を紹介してきたが、今回紹介するのは永長二年十月一ヶ月間の日次記で、先の九条家本のつれである。

時範の経歴等についてはこれまでの解題に述べられているので省略し、本書の書誌についてのみ触れておく。

本書は卷子本仕立。一巻。縦約三〇・二糎、横約五四・二糎の薄手の斐楮交漉紙に書かれており、鎌倉期の書写と推定される。本文墨付は十二紙、各紙の天地にはそれぞれ一本ずつの墨界線（界高二四・五糎）があり、各紙背下部に人名不詳の花押が書かれている。字詰は一紙に約二十五、六行、一行に約二十字である。全巻を通じて江戸初期のものと考えられる裏打修補がなされており、その際に加えられたと思われる表紙には「仁王會」という外題が記されている。これは、本書がもと巻頭部分を欠いていたため書名が不明となり、残りの部分が仁王會の記事か

ら始まっていたところから、便宜的に付されたものと思われる。当部において調査した結果、記事の内容から本書が永長二年（承徳元年）十月の日次記であること、さらに十五・十七日条に本書の記主が左衛門権佐・右少弁とあることから、本書は平時範の日記であると判断された。念のため『中右記』の承徳元年十月記中に散見する時範の行動を見たところ、本書の記主の行動はそれと完全に合致したのである。

本書が永長二年十月の『時範記』であることはこれで明らかとなった。これを同じ九条家本中の『時範記』（承徳三年春）と比べると、本文の筆跡は同一とは認められないが、いずれも鎌倉期の書写と推定され、かつ料紙・体裁がほぼ等しく、各紙背に書かれている花押が一致するところから、この二巻は同時期の書写と考えて差しつかえないものと思われる。その一方、江戸初期以前に本体から分離したと考えられる本書の巻頭部分は、後にそれを入手された弘文荘反町茂雄氏より当部に寄贈されるところとなり、「長二年冬上改承徳元 右御記」と外題の記された表紙と、それに続く本文第一紙とが、ここに再び接続されたのである。現在は当部において新に修補を加え、表紙・軸を付して、先の九条家本

『時範記』（函架番号九一五）に統合し、整理を終えている。

本書は僅々一ヶ月間の日次記でありながら、『中右記』の同月記などに比べると、その内容は実に詳細である。時範は当時四十四歳、正五位下にして藏人・防鴨河使・右少弁・檢非違使左衛門権佐・中宮大進の官を兼ね、いわゆる三事兼帯の上に関白藤原師通の家司をもつとめていた。その多忙さは本書の記事をもつても察するに余りあり、有能な実務官僚として重用された時範の活躍ぶりを彷彿とさせるに充分なものがある。

### 凡例

一、使用漢字は原則的に原本のままとしたが、一部異体字は正字に置き換え、便宜句点を加えた。

一、原本には一紙毎に張付けを示す和数字が記されているが、いまこれを略し、紙の終りに「」を附し、算用数字で張数を示した。また、本文中に附されている朱合点は省略した。

一、編者の加えた註のうち、校訂に関する註で本文に置き換えるべき文字を含むものには「」を、それ以外の校訂註および人名などの説明註には（ ）を附した。

（宮崎康充）

〔元包紙〕  
「永長二年冬上右御記 端損」

〔江戸初期表紙外題〕  
「仁王會」

〔元表紙外題〕  
「永」

「長二年冬上 改承德元」

「右御記」

〔同右見返し〕  
「改承德元」

永長二年

〔異筆〕  
「右御記」

十月

一日、辛巳、早且參高陽院、午後參（藤原師實）大殿、申剋參内、藏人

改夏御裝束供冬御裝束如例、晚頭民部卿・左衛門督・左兵衛督・右兵衛督（源俊明）・左大辨被參（藤原公實）・頭辨奏事由、仰云、無御出、依

例行之、次公卿暫起（源師賴）杖座、仰下官令居物、辨備畢、下官觸民

部卿、次公卿着座、一獻少納言懷季（平時範）、二獻下官、三獻少納言

家俊（藤原）、次上卿見々參、次上卿起座、於東中門令藏人家時奏見

參、勅可之後返給、次上卿歸仗座、召少納言家俊被下見參、

召左少辨有信被下（藤原）祿目到、次上卿以下退出、下官歸畢、

二日、壬午、早且參高陽院、午剋參 大殿、次參内、次參八

省、今日依有秋季仁王會也、大極殿立百講座如例、其儀見于

年々記、權大僧都慶朝爲（惣カ）講師、檢校二位中納言・左宰相中

將參上被行事、朝座散花以後、觸事由於左少辨有信參内、以

西渡殿爲南殿代、奉仕御裝束、圖書寮勤之、御殿供張御裝束

如恆、晝御座五間也、仍不違恆例儀、西剋中宮大夫・右大將（源師忠）・

民部卿・左衛門督・左兵衛督・右兵衛督參上左仗、以下官被

奏事具由、于時（藤原師通）殿下御於殿上、下官申事由、次 奏聞、

勅可畢、出陣、仰云、早早上卿可打鐘之由、仰下官、々々仰史

令打鐘、次中宮大夫・右大將・民部卿・左兵衛督被參殿上、

次御殿南殿出居次將昇、次殿下・中宮大夫以下參上、參上於

御前、左衛門督・右兵衛督昇南殿代渡殿、次御前南殿僧徒相

並參上、權大僧都隆禪爲御前講師、法橋源懷爲讀師、權少僧都林豪爲南殿講師、下官勤御殿堂童子、朝座了

間檢校上卿・宰相被參內、僧侶・公卿出居退下、次下官依召

參殿上、中宮大夫被仰可打鐘之由、先是以頭辨被奏云々々次打鐘、次出居

僧・公卿參上之儀如朝座、事了、有行香、御殿公卿六人・殿

上人二人行之、藏人家時取火舍、南殿辨・少納言・出居將相

加行之、事了、兩方僧・公卿出居退下、

今日仁王會咒願被載地震并彗星變、

次諸卿被率參宮御方、講說了、行香如常、次下官退出、

三日、癸未、早旦參（藤原師通）殿、覽文書、次參內奏之、次參高陽院、

今日被行御讀經、其儀御殿南庇西第三間、懸御佛、椰枇香花燈

明佛供、其北立聖供机、同庇敷僧座、如季御讀經、敷公卿并

堂童子座、立行香散花机同前、停出居座其所設殿上人座、申

剋民部卿・中宮權大夫被參上、先打鐘、次僧侶參上、權律師定眞、延眞、永緣、

證觀、凡僧十六、并廿口也威儀師慶俊爲引頭、轉讀仁王經、殿上五位勤堂童子、

事了、有行香、藏人所衆取火舍、行香了、僧侶退出、次上卿

退（可力）出、先是下官奉 勅、仰上卿云、明後日不被行廿二社

奉幣、仍御讀經縮一日、明日不被結願者、是則依天德四年十

一月遷御冷泉院時例也、酉剋歸參內、民部卿被參左仗、召下

官被仰云、勘先例、行幸同日同時奉渡御竈神之時、不被勘御

竈神日時、然者不可被勘之、至于賢所渡御日時者、或於藏人

方勘之、而先例或於陣勘之、早可被勘之、始御裝束日時先例

勘之、被立御帳日時同可被勘者、下官申云、早任先例可被勘

者、即上卿被仰云、渡御高陽院日時宜令勘申、兼又可奉渡賢所

日時、可被立御帳日時、可被始御裝束日時同可令勘申、下官

着床子、召右大史時（藤原）眞下知之、頃之持來陰陽寮勘申日時勘文

四枚、一枚行幸日時、今日十一月辛卯、時戌二點、可出御自東陣、一枚可奉渡賢所日時、

同日辛卯、時亥二點、一枚可被始御裝束日時、今日癸未、時戌二點、一枚可被立御帳日時、

今日十一月辛卯、時午二點、籠一懸紙覽於上卿、々々命云、十一日太白在卯

方、而出御自東陣、可有憚否、重可問陰陽寮者、退召陰陽寮

問之、申云、東門不當卯正方、仍所勘申也、下官此由申上卿

了、次上卿召外記莒入之、以下官被內覽、即參關白殿內覽之、

次歸參內奏聞、依上卿命、直奏聞之、次出陣下、上卿仰云、依勘文行之、行幸日時・賢所日時被下外記、御裝束日時・御帳日時被下々官、即上卿被仰云、十一日行幸可引黃牛二頭、不可儲水火重、不可供五菓、不可有御反閑、可。被儲三个夜事、早可令下知其由者、件等事兼被 奏定也、

引黃牛不供五菓無御反閑例、

應和元年十一月 日遷御新造內裏、其儀如此、子細見于

御記、

儲三个夜事無公卿祿例、

天德四年十一月四日遷御冷泉院之時、雖被設三个夜事無

公卿例、敬賦、

長和五年六月二日遷御一條院之時同前也、

長久四年三月廿一日遷御一條院之時又以如此、

戊剋歸參高陽院、始御裝束之後退出、

今日御祈願料米二千石、支配諸國各遣 殿下御教書了、依先例也、

四日、甲申、早旦參內、奏文書、其次申明日奉幣伊勢宣命事、仰云、明日廿二社奉幣、依天變地震事所被發遣也、被勘日時

之後、大神宮正殿不被開之由所聞食也、然則、伊勢宣命趣載天變地震事、辭別可載大神宮正殿戶不被開事、早可仰權大納言藤原朝臣、即奉消息於納言、大內記俊信(藤原)依病久不出仕、仍被仰左少辨有信云々、次爲御使參大殿、次參殿、被申宇佐使事也、次參高陽院、西剋民部卿被參會、御讀經結願也、其儀

如昨日、右兵衛督被參、事了有行香、事了、上卿以下退出、

入夜下官歸參內、明日奉幣伊勢使中臣不候、仍沙汰其事、及

深更退出、此間神祇權大副輔弘使者來、告輔弘參(大中臣)之由、仍

奏聞其由畢、今夕於高陽院被行土公御祭・大將軍御祭・王相

御祭、主計頭道言朝臣奉仕之、藏人修理亮佐實監臨之、

五日、乙酉、早旦參內、依有廿二社奉幣也、先是上卿新大納(藤原家忠)

言被參上、已剋令下官奏 宣命草、廿二社奉幣宣命草一紙、

伊勢宣命辭別草一紙也、奏覽之後返給、清書遲之間及未剋、

令奏清書宣命、其次被奏使王申御馬之由由、次上卿被渡八省、

次下官參高陽院、仍不見御拜儀、依無南殿、於御殿裏角間有御拜、如御物忌時儀云々、臨昏參殿、次退出、

六日、丙戌、早旦參內、次參高陽院、晚頭參殿、入夜歸畢、

七日、丁亥、早旦參內、次參高陽院、入夜參殿、次歸家、

八日、戊子、早旦參大殿、次參高陽院、臨昏退出、

九日、己丑、早旦參殿、次參高陽院、臨昏退出、

十日、庚寅、早旦參高陽院、行雜事、亦令始宮御方御裝束、

六位進惟兼行之、已剋依召參內、爲御使參大殿并殿、依宇佐

使事也、未剋歸參內申御返事、次參高陽院、臨昏參內、入夜

中宮大夫被參左仗、下官奏事由、下奉祭主・太神宮司等解狀、

去月十七日戊剋大神宮正殿御盥不被開、仍例幣奉納東寶殿狀。仰云、依何咎徵所致哉、宣令神祇官・

陰陽寮卜事、上卿被仰可令鋪座由、下官退、下知史令敷之、

次召外記令召官・寮、次玄蕃允大中臣惟俊、依無中臣官人。・神祇

少祐兼政、已上神祇官。・主計頭道言朝臣・陰陽頭成平・大炊頭光平、

已上陰陽寮、參上着座、下瞻着中之軒也。次上卿召惟俊給解狀、亦召道言朝臣被

仰解狀趣、亥剋御卜了、上卿令下官內覽持參殿下、即以歸參、

直以奏之、依上卿仰也。勅可了、即出御鬼問、下官取昏筆參上、仰云、

神祇官卜申神事不信并公家御慎由、陰陽寮召申神事違例并穢

氣由、而伊勢事偏就神祇官御卜所被行也、宣令神祇官覆祇不

信也、依延久元年例書封昏可下之者、下官依仰書之、一枚朝

家不信歟、封之、一枚使不信歟、封之、一枚本所不信歟、封之、已上

三通加入御卜筮、出陣下、上卿仰云、重令神祇官卜申、頃之

上卿令下官奏御卜、即參御前奏聞、主上令開給、朝家不信歟、

卜不令使不信歟、卜不令本所不信歟、卜不令即乍三枚留于御所、依

延久元年例也、歸出、仰聞食由於上卿、至于內覽依殿下仰不

持參、以消息所令申也、次仰云、令勘申奉幣日時、召陰陽寮勘

申、廿三日癸卯時令下官奏聞、次上卿退出、次下官退出、今日令

主計頭道言朝臣勘申可被立宮御帳日時、十四日甲午時午二點覽于大夫、

々々被下々官了、

又法成寺新堂也供養可准御齋會由、被下宣旨了、

今日有五節定、頭辨被定申、源雅實藤原通俊右大將治部卿美乃守義綱朝臣美作守基隆藤原

十一日辛卯、天晴、早旦參內、次參高陽院、已二點令立盡御

座・夜御殿御帳、已上新調之又令立南殿御帳、酉剋主計頭道言朝臣

參、奉仕西嶽直人七十二星鎮、支度在別又奉仕散米カ、民部卿不被

供奉行幸。被候新宮、下官着闕腋衫・純方帶・螺鈿劍・弓箭

等祇候、先令神祇官奉仕大殿祭、戌剋行幸、乘輿花籠留右衛門

陣外、玄蕃允大中臣惟俊供奉御麻、先是黃牛二頭牽立西中門

外、左右馬寮進之、各頭史生二人、着褐衣布帶等頭別牽之、上

卿并下官立於中外整其行列、乘輿入御自西門之間、黃牛相並、

左北徐行、主殿官人秉炬前行、黃牛至于版位南池畔相並北面

而立之、左渡東、右留西、群卿列立南庭、乘輿葦于南殿南階、〔廢後力〕下輿、

內侍候劍璽、御輿退、次中務官人錄置版位、〔用舊宮〕次少納言實

明奏進鈴由、次群卿稱籍訖、次渡御中殿、次黃牛牽〔藤原忠實〕東西廊、

搆張槽飼葛、〔左東、右西、〕次中宮大夫・右大將・新大納言・左大將・

民部卿・左衛門督・二位中納言・源中納言・治部卿・左宰相

中將・左兵衛督・右兵衛督・新宰相中將・〔藤原宗通〕宰相中將・左大

辨被着右仗座、大膳職備饌、豫以居之、〔用大盤〕先一獻、〔少納言家俊勸之〕次

二獻、〔下官勸之、實明勸之〕次三獻、〔少納言〕羞汁物下箸、先是供夕膳、〔頭中將為隨膳〕

次出御盡御座、〔御直衣〕左中辨師賴朝臣奏伊豫國年料米懈文、〔解〕藏

人頭國信朝臣奏內藏寮臨時公用請奏、共下中宮大夫了、下官

依陣召參上、被下內藏寮請奏給□□退、此間下官知藏人令

奉仕御裝束、其儀係庇第四間以西反。樓燈綱、西第一二三間敷

緣端帖爲公卿座、御座左右供御燈、公卿座前、〔當第三間〕立燈臺、

殿下出御殿上、〔內藏寮居饌、無盃酌儀〕中宮大夫以下被參上、次宸儀出御盡

御座、召人、藏人頭師賴朝臣參上、依〔天〕天氣出于殿上、告御出

之由、目許也、次殿下・中宮大夫以下參上、着御前座、〔大殿候于鬼間、不令着此座給、〕

次內藏寮賜衝重於公卿、〔侍〕藏人頭師賴朝臣勸盃殿下、々

官取瓶子、〔師賴朝臣取〕不請、次數菅圓座於南廂西第一二三

間、〔五位已下役之、第三間當盡御座西頭中央敷一、枚、其西二行對座敷之、西第一間燈樓綱反之、〕次大殿令着奧圓座給、關

白殿〔令着外力〕第二圓座給、中宮大夫・右大將・新大納言・左大

將・民部卿・左衛門督・二位中納言相〔分力〕着圓座、次藏人頭國

信朝臣取御料帟、〔廿帖積折〕進自圓座中央居于御座坤角、給公卿

碁手料帟、〔大臣十七帖、納言十五帖、參議十三帖、積折數不居高杯、以上官行事所役也、〕次下官取切燈臺參進、

云替西燈臺、取本燈臺退入、次召人、下官參上、召筒簍、下

官執筒簍、〔徒〕參上、立上頭中央圓座上、〔件等路經圓座中央如初〕次召人、藏

人參上、被仰侍臣可進帟〔由力〕、次藏人左衛門尉盛家參上、進帟、

〔置于圓座外南方〕次下官參上、進帟、〔其儀如初〕次藏人頭師賴朝臣進帟、次公

卿自下依次進之、次召人、藏人盛家參上、擲簍、次下官參上、

取筒、殿下令入簍給、下官打疊六退、次頭辨參進、擲之、次

公卿自下依次擲之、擲簍戲了、群卿退入、次入御、今日不賜

公卿祿、〔子細見去、三日記、〕今夕於二條殿被行儀、聞或人語記之、

公卿着殿上人座、〔本家仰大膳職令設饌、而本職懈怠不居云々、〕主上出御盡御座、公卿依召

參上、〔豫敷圓座於寶子、〕次有御贈物、左大將取御本、〔納紫檀地螺細管、象眼付銀持枝云々、〕二位

中納言取箆、〔袋、納錦〕參進御前、備于上覽、退入、付藏人了、次

被貢被馬六疋、〔左中將忠教朝臣、少將有家朝臣、家政、右中將顯實、〕少將能俊朝臣、師時等牽之、引廻了、押

分賜左右馬寮云々、次群卿退座、殿下令候給、更召中宮大

夫、被行敍位、依勸賞也、藤原朝臣信子、北政所、高藏殿北政、大藏北政所一度令敍三位給也、藤原朝臣通子、姬君、敍從五位上、

正四位下藤原朝臣行家、家司賞、

從四位下藤原朝臣家政、子息、

正五位下藤原朝臣盛實、家司賞、職事、

有女房贈物、構折櫃物積置之、織物・染綾、打絹五十疋、構檜破子、其中納綿三百兩

公家賜家司祿、白掛十領、黃衾等也、內藏寮儲也、以藏人宗仲令渡家司了、

不被儲殿上并大盤所坑飯、亦賜諸陣并女官等祿云々、自余

省略、

行幸同時御竈神渡御、臨時被勘日時云々、兼日不可被勘之儀

也、源中納言・頭辨・外記・史・左右衛門・兵衛等供奉如恆、

皆以前行、源中納言被下勅授宣旨云々、

亥時內侍所渡御、五位藏人右近少將師時供奉、(源)左右近次將以

下供奉、皆以前行、內豎昇出之、駕輿丁持之、以北寢殿良角

塗籠爲御在所、內藏寮供五色絹幣、納殿供五色昏幣、內敷同藏辨

備御供、女房官賜衝重、自余不能委記、

中宮依御衰日今日不行啓、來十四日可入御也、仍留御二條殿、

諸衛可候啓陣之由、大夫仰外記云々、新宮儀、殿上・藏人所・

瀧口并公卿・侍從・上官皆賜饗饌、女房并女官給衝重、諸衛・

諸司頒給屯食、司諸衛

不供五菓、無水童、火無御反閑、其間子細見其三日記、今夕宿

侍、

十二日、壬辰、天晴、酉剋大膳職居殿上饌、官厨家居公、卿

座饌、自余不能委記、入夜中宮大夫・左衛門督・二位中納言・

右兵衛督・新宰相中將・右宰相中將・左大辨參着、盃酌之儀

如昨日、此間弘庇鋪公卿座、供燈如作、群卿參上候于殿上、

宸儀出御、召人、頭辨參上、奉仰告御出由、次中宮大夫以下

參上御前、右近少將能俊朝臣勸盃、巡行之復鋪圓座於南庇、後敷

次群卿依天氣移着圓座、次頭辨供御料昏、次賜公卿昏、次立

替短燈臺、次下官獻筒簍、次侍臣獻昏、次公卿獻昏、次有擲

簍之戲、事了群卿退下、次宸儀入御、今夕宿、諸陣所之賜饗・

屯食如昨日、

十三日、癸巳、天晴、所々儲饗饌如昨日、入夜殿下參御、中

宮大夫・民部卿・左衛門督・源中納言・右兵衛督・新宰相中

將・右宰相中將參着伏座、一獻、少納言三獻、宗俊下官、盃酌饗了、諸

卿參上殿上、先是藏人奉仕御裝束如例、次主上出御、頭辨召

諸卿、殿下・中宮大夫以下參進御前、頭辨爲勸盃、次敷圓座於南庇、次諸卿進候圓座、頭中將供御料忬、次賜公卿忬、次立替切燈臺、次下官獻筒簍、次侍臣獻紙、次公卿獻之、翫簍之興如昨日、事了諸卿退入、次宸儀入御、下官退出、

今日召主計頭道言朝臣、令勘申可出御南殿日時、十五日乙未、時午二點若申、

內覽了、奏聞、次下官奉中宮大夫、被下外記、

十四日、甲午、今朝內裏所候天木各遣本寮了、已剋參法成寺新堂、大殿・關白殿令參給、先是奉渡御佛了、次參內、未剋參六條御堂、以寢殿爲御堂、々莊嚴儀每事美麗、晚頭被供養之、<sup>10</sup>

僧正隆明引率廿口讚衆、就密教供養之、下官事未訖以前參中宮、依今夕有行啓也、下官着鬪腋袍・螺鈿劔・純方帶、<sup>11</sup>頃之

大夫被參、下官召陰陽頭成平令勘日時、覽于大夫、次啓之、返給下大夫、々々被下々官、々々下屬了、新大納言・左大將・

權大夫・左大辨・右宰相中將被參、成剋成平參上、奉仕御反問、賜祿、先是大夫參上被行召仰、事了、次寄御輿、花葦、次出自

東門、自二條大路西行、自東洞院大路北行、自中御門大路西折、入御自北陣、下官不帶弓箭供奉御後、供奉諸衛如恆、出

車十兩、女騎八人扈從、蓋御輿於東對東面、次御輿退、次公卿稱籍、<sup>12</sup>次公卿退出、

今日夕僧正隆明引率八口伴侶、勤一字金輪法、依天變御祈也、令藏人盛輔仰御願趣、

今夜新堂御佛開眼也、

十五日、乙未、雨降、已剋參大殿、次參內、今日始出御南殿聞食旬、爲行事之故也、申剋殿下令參給、中宮大夫・新大納言・左

大將・民部卿・左衛門督・左兵衛督・右兵衛督・右宰相中將・左大辨參上右仗、西剋宸儀出御南殿、內侍候御劔璽、女房八人

扈從、<sup>13</sup>藏人候式宮御靴、次宸儀着御

帳中倚子、內侍置劔璽於右机、藏人置式宮於左机、次闌司候

左掖門代外、<sup>14</sup>次右近將曹一人率近衛一人、褐衣、出自

本陣開門、<sup>15</sup>次闌司立西中門奏、<sup>16</sup>勅答、<sup>17</sup>次大監物說、<sup>18</sup>

家率主鎰一人入自同門立中門奏云々、勅答、取禮、監物・主鎰<sup>19</sup>

等共稱唯、給鎰退出、次閉門、將曹・近衛引還、次內侍臨西檻、

召人、大臣不參、仍無官奏、次出居左近中將國信朝臣、<sup>20</sup>藏人頭、

出自右仗參上、昇自西階着座、次中宮大夫以下起仗坐着靴、

入自西中門參上着座、次出居侍從右馬頭兼實朝臣入自同中門



參上着座、着北、床子、此間堂上供燈、主殿官人舉炬、依雨晴立庭中、然而依庭濕庶事雨儀、

次內膳奉膳以下八人昇御臺盤、經東軒廊來東階下、采女傳取、

先改把、不改冒、八人昇之、昇前、入自東戶至南庇東第二間之比、出

居次將召內豎、二音、內豎等於同中門外同音稱唯、次內豎一

人參進立西軒廊內、次將願仰云、御飯給、內豎唯出、采女立

定御臺盤、陪膳采女若狹、留着草墊內、采女昇造酒司酒器、入自

東戶立南庇東第二間、先昇御臺盤一脚、南北妻立之、次立酒器并鐘子、次內豎立臣下大盤、豫儲東居

箸、次取下器、內豎四人經馳道東渡、就進物所受牽餅、中門邊

次酒番侍從着座、次供御四種、祥酒、鹽、醬、每坏居中盤、有蓋、次給臣下四種、

次下器、內豎歸度過版位巽之間然牽餅、居中盤、有蓋、次賜臣下牽餅、

次御箸鳴、臣下應之、次供炮御裝羹、以件盤撤牽餅、次供御飯、

居中盤、次給臣下飯、次供進物所御菜・汁物、先雀坏二坏、次平盛二坏、有銀蓋、御汁物二坏、并十坏皆盛

銀器、各居中盤、坏別有蓋、次供御厨子所御菜・汁物、高盛八坏、燒物二坏、汁物二坏、并十二坏皆盛土器、居御盤一枚供

之、無、次賜臣下菜物・汁物、次御箸下、臣下從之、次一獻、

采女采女供之、銀御酒次酒番勸臣下、唱手次內豎四人各持下器、經馳

道着東階下受取下物、一盤炊糕、一盤堅鹽、一堅薯若如物、一盤加糖、鯛、堅魚、下盤別數倍、更歸昇自西階

至<sup>12</sup>于公卿座前、公卿每物一兩箸分取之、至于出居賜之、上

薦一兩分取之間、供菓子・干物、內膳供之、菓子、干物、各四坏、一盤供之、次賜臣下、

次二獻給臣下、次開門、關司奏、勅答、令申與、次左近少將有家朝

臣・右近少將師時・左衛門權佐、下官、縫殿袍、丸鞆帶、右衛門權佐

顯隆・左兵衛佐基隆・右兵衛府源安季、帶弓、各執番奏簡、入自

左掖門代列立西中門、北上、依上番左近將有家朝臣奏云々、次下

官奏曰、左右乃靱負司早久此月乃上番仁仕<sup>戶末</sup>、可支件御奴乃名付

乃簡進<sup>良牟</sup>、申給不之申須、次左兵衛佐基隆奏云々、勅答、置个、次將

同音稱唯、次關司二人入自同門列立六衛府上、一々手轉授關

司、一人授左三枚、一人授右三枚、是則依左少將有家朝臣確執也、先例一人取左右近、左衛門、一人取右衛門、左右兵衛、以之爲善、關司取簡至西

軒廊之比、六府把笏揖、右廻經列前、退入同門、下官營參、導

引關司昇自南殿乾階、經御後出東、入自南庇、經母屋東第一間、

出自同間戶、就御後授內侍、々々二人取之、一人取左右近、就御帳

車奏之、御覽之間懸簡頭於置物机云々、殘四枚不奏、關司不經本路、自御後退出、尋、若可

路敷、經本次三獻給臣下、次依臨夜景被停庭立奏了、次采女撤御

膳、先以大盤撤四種、次蓋盤、次以大盤撤、三枚撤之、次撤御臺盤、次撤酒器、此間出居次將召內豎、二音、內

豎參上、次將仰云、數多參來<sup>せ</sup>、次內豎參上、乍大盤撤之、次

公卿退下、次宸儀入御、出居次將稱警、次還御本殿、今日無

見參事、二孟之外無此儀<sup>云々</sup>、今日早且裝束司奉仕御裝束、

其儀御帳南東西三面奏帳、卷敷其內敷兩面端筵三枚、立整御意子、

在錦  
後代、御帳東西間、自北柱下立御屏風、御帳後敷綠端帖爲內侍

座、御後障子內敷兩面端帖爲執政御座、其西間儲御<sup>13</sup>裝物所、

其西設女房座、自南庇西第三間西頭至于同第一間立兀子・床

子爲公卿座、如裝束司記文者、自  
第三間可敷者、西階北第一間壁下立床子二脚爲出

居座、御殿巽壇上立床子二脚、爲酒番侍從座、西中門北腋造

酒司持酒具立候、今日法成寺新堂供養試樂云々、今日夕主計頭

道言朝臣於大極殿奉仕三萬六千神御祭、藏人佐實監臨、

十六日、丙申、未剋參大極、有試樂、此間下官參內、晚頭退

出、

十七日、丁酉、天晴、今日有法成寺新堂供養事、件御堂宇治殿令建  
立給、永承五年供

養之、而天喜火事之後、未復舊基、爰太閤仍舊結構土木功了、遂以今日  
所被供養也、去十日可准御齋會之由、左大臣於里亭奉之、下知官外記了、

前一日堂莊嚴、其儀南裳層東一二三四間東南兩面懸御簾、爲大皇太后<sup>〔太〕</sup>

宮御所、東第四間設御座、北政所同御于此所、同第三間以東

并東面爲女房候所、西裳層爲大殿御休息所、南樂西第五間以

西設上達部座、中門內東西腋敷辦・少納言・式部・彈正等座、

同中門左右廊爲樂屋、其前各立大鼓二面・鉦鼓等、東西廊立

長床爲衆僧座、金堂西廊外引幔、立床子爲衆僧集會所、阿彌

陀堂北廊設上達部・殿上人座、

當日寅剋發音聲、神分、卯剋分給僧十四口法服、辰一剋打衆僧

集會鐘、午剋 關白殿・中宮大夫・新大納言・左大將・民部

卿・左衛門督・右衛門督・源中納言・二位中納言・治部卿・

左宰相中將・左兵衛督・右兵衛督參會阿彌陀堂、先有盃饌事、

次大殿出御、相率入自中門令着堂上座給、次少納言實明・右

少辨<sup>下</sup>實權<sup>14</sup>・少納外記紀清原信俊・左少史同俊忠等着中門內

座、式部・彈正省臺入自中門左右分着、式部在東、  
彈正在西、未剋威儀師慶

俊・覺俊等召計從僧入自中門、敷草座於東西、威儀師豫立標、

此間樂人等發樂、先新  
樂、左近將監柏光季振梓、次古樂、右近將監

多資忠振梓、次共一節、左右共振、次師子出臥舞臺異坤角、

次吹調子、壹越  
調、次雅樂寮率樂人等、東西相分出自中門、行向衆

僧集會幄許、發音樂、詔應  
樂、經本路到樂屋前而立、樂不  
止、此間師子

舞、次治部・玄蕃省寮、

(二行分空白)

率衆僧經同路到僧座前而留立標下、僧侶各立座前、樂止着座、

引頭法印權大僧都覺信・法眼靜意、衆僧着了後着之、證誠前

大僧正覺圓・大僧正仁覺不列衆、入自佛後着堂中座、次雅樂寮

率衆僧列前所、發音樂、河曲子、經前道到樂屋前而立、師子立舞

如前、次省寮前行、咒願權僧正增譽・道師〔尊〕法印權大僧都賴尊

乘輿、執蓋者相從、到舞臺巽坤、省寮留立、導師・咒願下乘、

經舞臺就禮版禮佛、諸僧惣禮了、各登高座、咒願〔尊〕在東、省寮并執

蓋者率還、次堂童子着座、〔藤原〕左方散位知家朝臣・太皇太后宮大進清實朝臣・前上〔太〕

野介藥房・治部少輔經敏・散位敦遠・盛雅・師隆着〔高階〕 藤原

菊蜀染下襲・馬鬚帶・鼻切沓、右方造與福寺次官能遠朝臣・散位盛長朝臣・散位盛實・前〔藤原〕

石見守宗季・甲斐權守永實・遠江權守爲宣・參河權守宗佐着躰躰下襲・斑犀帶・馬鼻沓、〔藤原〕

圖書官〔藤原〕人爲先、次圖書寮打金鼓、次發音樂、〔藤原〕次迎陵頻六人・胡蝶六

人、菩薩十二人各捧供花、〔胡〕二行相分經舞臺到御堂壇下、授十

僧了、樂止、迎陵頻・〔胡〕蝶着舞臺上草墊、菩薩留立舞臺上、

即發菩薩樂供舞、次迎陵頻從樂供舞、次胡蝶從樂供舞、次打

金鼓、樂人發樂、河水樂、次唄師權大僧都慶朝・隆禪・權少僧都

林豪・經範起座、着堂上座、樂止、次定者〔人進〕、自東西昇舞

臺禮佛了、就机下取火舍而立、次金鼓、唄師發音、定者隨音

徐行、次堂童子起座、取花宮頒僧、了複座、次散花權少僧都

仁豪・法眼實覺・寬慶・權律師證觀各起座、昇舞臺北面〔而立〕立、

引頭率衆僧徒之、〔從殿〕此間樂人相率左右分立、散花發音、樂人發

樂、鳥向樂、左右相並、〔舞人爲先、取物爲後〕昇舞臺進自衆僧中加立定者前、師

子在前、定者・散花・引頭〔行賢〕、納衆・讚衆・梵音・錫杖等僧

依次行列、經舞臺東西相並行到大行道了、〔大行道時一列、於堂前爲輪〕歸着如

初、定〔者九〕無机下、衆僧出了時置火舍、加錫杖衆末、樂人先列

立樂屋前、衆僧着座了、樂止、樂人入樂屋、次唄師下堂複座、

威儀師二人昇舞臺、就案下取願文・咒願文、授導・咒、次打金

鼓、樂人發樂、應天樂、次讚衆起座、昇舞臺唱讚、音頭持鉢、自

餘持花宮之定、樂止、〔先東寺、次天台〕唱了、又發樂、〔海西、樂止〕讚衆複座、〔樂止〕

次打金鼓、樂人發樂、〔崇〕宗明樂、梵音衆昇舞臺唱梵音、音頭持香

爐、自餘持花宮、唱了、退還如初、次發音〔口〕桂、次打金鼓、

次發樂、秋風樂、次錫杖衆昇舞臺供錫杖、〔皆持錫杖、但退時逆持之〕了、退歸如初、

次發樂、越天樂、退歸如初、堂童子取花宮退入、次宮退入、次導

師表白、次 勅使左近中將忠教朝臣先參堂上、申事由〔於〕

殿下、次就導師高座邊、仰賜度者之由、導師隨喜、仰了退入、

次敷圓座於公卿座末、公家御誦經〔信濃布五百端〕、使右馬頭兼實朝臣參

上、家司修理權大夫爲房朝臣申事由、使着座、賜祿、大楯一領、

降自西階於巽坤角庭再拜退出、次中宮御誦經使權亮國信朝臣

參上、賜祿如初、先是賜衆僧祿、本家布施之外、〔太〕大皇太后宮・

中宮・北政所・關白殿皆有加布施、〔其法在別、但本家破物、導師・咒願・引頭・唄・散花・堂遠・納衆等中僧綱皆〕

有破物、事了、導師・咒願降自高座、此間發樂、長慶子、就禮版禮佛

了退出、省寮率歸初、次打金鼓、次左右遞供舞、先供安摩二舞如例、此間依臨昏黑舉庭燎、次左萬歲樂、右地久、次左散手、右歸德侯、次左陵王、右納蘓利、次大殿・關白殿還御、諸卿退出、太后還御、依臨暗夜取被物并布施人々不見、子細追可尋記之、

今日無勸賞事、

樂行事、左方中將忠教朝臣、右方少將能俊朝臣、

十八日、戊戌、今日參院、次參殿、次參內、後聞、於京極殿有樂、密々有纏頭事云々、

十九日、己亥、早且參大極殿、次參殿、內覽文書、次參內、奏聞、入夜歸畢、

廿日、庚子、早且參院、申五節事、御返事云、紀伊守朝輔奉(藤原)任何事在哉、次參內、奏此由、次參殿、申此旨、次歸參內、入夜退出、

廿一日、辛丑、午剋參內、爲御使參院、被申二會講師事、御返報云、今日々次不宜、仍不可被仰下、明後日奉幣也、可有前後齋、仍講師事不能沙汰延引、或<sub>レ</sub>日追可被仰下者、次參殿、申此由、次參內、奏聞此旨、次向中宮大夫第、次歸畢、

廿二日、壬寅、早且參大殿、申請雜事、次參結政、官政始也、先是權辨被立假借間、下官參上、次史着座、次下官經晴路着座、次權辨被着、午剋民部卿・前大貳參上、(藤原長房)被着左衛門陣屋、

頃之被着廳屋、大辨共有故障不參、仍史不結南申文、官掌作法了後、權辨・下官起座、深歎着許沓列立廊外、少納言家俊加列、

外記來加史列、次入自廊戶、爲先、少納言着庭中版、上宣召<sub>テ</sub>、辨・少納言先唯、次六位上官唯、次權辨先昇着座、依四位也、次少納言

家俊着、次下官着、次權辨起座結中、次史、依次申文每度上卿與奪、辨・少納言乍居摩靴唯、事了、上官退出、辨・少納言自下退、次權辨并下官脫深沓復座、次有請印、少納言實明

預之、次出立、下官并少納言家俊列立、宰相并上卿出自外記門南行、揖儀如恆、上卿入南所門內、下官不同、申文爲令稱不

無字也、直以改列、少納言相並南行、下官立棟樹下、少納言入門內、次上官立直、次權辨出自外記門南行、相揖如例、次權辨并下官立外記門外、辨侍法申、權辨與奪、次入門內、先是上卿・宰相着座、少納言家俊着座、召大舍人、次權辨并下

官着座、依大辨不參無申文理、須南座中少辨結申、爲不稱法无家不法申、下着之後少納言家俊勸盃、事了退出、此間白雨俄

灑、仍用雨儀、無出立、上卿以下相率參內、用大炊御門、上卿・

宰相着仗座、依無大辨、權辨依上卿氣色行申文事、權辨并下

官着床子座、史相忠申文如例、次權辨起座參陣腋、依上卿氣

色着宰<sup>18</sup>相座、先是宰相移納言座、次史相忠申文、匙文二枚、馬料文二枚、

其儀如例、事了、上卿以下退出、次參殿、申定明日奉幣宣命

趣事、次參內、奏聞、次向中宮大夫第、仰明日宣命旨趣了、

宣命趣

去九月十七日神嘗祭幣帛、依大神宮正殿不被開、奉納東寶

殿、自茲去十日令神祇官・陰陽寮卜其咎徵、神祇官勘申云、

依神事不信公家可慎給之上、可有天下御畏所致歟、陰陽寮

勘申云、依穢氣并神事違例所致歟、就神祇勘申重令卜問神

事不信、同官勘申本所神事不信之由、追尋子細、且令懲肅、

且宣謝申也、爲令告申此旨、禮代御幣相副金銀御幣并御馬

所令進給也、事乖前例、叡慮無聊殊畏思食者、

廿三日、癸卯、天晴、辰剋參內、巳剋中宮大夫參內、此間御

覽伊勢神寶、內宮料金銀御幣各二枚、納平文宮、外宮料各二枚、納平文宮、置少唐櫃蓋、陳置畫御座方、副平文串、主上着御庇々

直衣出御、々覽神寶、是則依延久例也、次御覽神馬、內宮料左一疋、右

料左一疋、右少將能俊朝臣祇候、次下官依上卿命、持宣命草於殿

下、件草大內記俊信奉之、而依所勢不能持、差使奉、上卿第、上卿隨身參內、以下官所被內覽也、即被停清書內覽、逐電歸

參、上卿就御所邊、令下官奏宣命草、返給之後被返仗座、頃

之重參被奏清書、其次被申使王申御馬由、返給之後上卿被向

八省發遣奉幣使、今度奉幣偏依內宮正殿不被開所被發遣也、

左左中辨師賴朝臣行奉幣事候、於八省使王如<sup>19</sup>法卜遣之、中

臣差遣神祇權少副輔清、申斜奉幣立了由使者來申、仍出御南

殿有御遙拜、其儀如例、酉剋中宮大夫歸參右仗、下官奏事由、

仰云、令勘申伊勢奉幣日時、可被發遣公卿勅使料、即被仰下官、上卿移外

座、下官持參日時、來月五日乙卯、時午二點、上卿令下官被內覽之、即以歸

參、返奉上卿、々々以下官被奏、勅可之後返給、此間主計頭

道言朝臣召藏人所、差可勤奉幣使公卿一二三、一、中宮大夫、二、新大納言、三、民部卿、

令占申之、即進卜形、下官奏之、御卜之趣以一爲吉、仍內々

被告仰中宮大夫了、

廿四日、甲辰、早且參大殿、爲御使參內、被申讚岐守行家朝

臣重任事、次歸參大殿、申御返事、次參宮御方、被造始等身

千手觀音像、法橋院助於阿闍梨靜信房始之、少進實房監臨之、

入夜參左府、宣下讚岐重任事、即被仰下官、々々仰祐俊宿禰

了、次歸畢、

廿五日、乙巳、早旦參大殿、午剋着左衛門府廳、依政始也、

左尉(高階)式賢・盛業(中原)・志範政・府生忠重(清原)・右府生保成(大部)參會、冠布衣、

先供給、式賢勸盃下官、々々擬盛業、下着之後勸二獻如初、

或賢令置版、有免者、次取版、次覽看督長見不參文、加署如

例、次府生下立、下官退出、次參內、奏文書、晚頭退出、

廿六日、丙午、午剋參殿、申文書、次參內、爲御使參院、頃

之歸參、申御返事、入夜退出、

廿七日、丁未、早旦參大殿、申請御修法等事、次參內、次爲

御使參院、申今日被始行御修法日次宜之由、<sup>20</sup>昨日有御消息

御返事也、次參殿、次參內、次向眞言院、沙汰御修法壇所事、

次歸參內、入夜自院下給丹波重任解文、奏聞事由、下出納了、

宿侍、今夕被始御修法數壇并星供等、

### 孔雀經御修法

法印權大僧都實賢修之、伴僧廿口、以眞言院爲壇所、以

檢非違使令宿直、

被仰殿上受領每日遣僧前、朝夕二度、々別、廿二前、

以藏人佐實令仰御願趣、兼又遣御衣、程遠每夜不可奉仕

後加持之故也、

### 大威德法

權少僧都經範修之、伴僧六口、

### 千手法

法眼長覺修之、伴僧六口、

已上三壇進行事藏人各令仰御願趣、

### 六字法

權律師賢暹修之、伴僧(マ、)口、件法自院所令修給也、仍藏人

方不知之、以若狹守(藤原)敦兼爲使遣御衣并蘓蜜、臨伏見所被

行也、

廿八日、戊(申脱カ)、午剋退出、參殿、申文書、次參大殿、次歸了、

廿九日、己酉、午剋參大殿、次參殿、次參內、奏文書、次爲

御使參院、被申二會講師事、仰云、今日大禍日也、明日可被

仰者、次歸參內、奏此旨、次遣召中宮大夫、頃之被參、下官

奏事由於殿下、仰云、來月五日可被發遣伊勢神寶、可令奉仕

使者、大夫奉仰被退出、自今日被潔齋云々、治部卿參上右仗、

被行陣覽(脱アルカ)內文并位記請印、次參左府、仰云、令式部(藤原)大輔正

家朝臣并文章博士等勘申年號字者、卽來月八日可有定之由令

告申了、次歸了、

卅日、庚〔戊脱カ〕、午剋參院、爲御使參內、逐電歸參、申御返事、御消息云、二會講師 宣旨可賜永清、立者〔堅〕可被仰蘭城寺嚴俊、卽以歸參、奏此旨、爲御使參關白殿并大殿、于時御物〔天、〕京極殿、申事由之後歸參內、頃之民部卿參上右仗、下官奏事由、仰云、永清大法師可爲圓宗寺法花會講師、嚴俊大法師可爲豎義者、上卿被仰下官、々々着床子座、下知右大史時實畢〔眞〕、次民部卿可被定申大乘會僧名、依無宰相、權右中辨重資朝臣書之、書了、以重資朝臣被內覽、奏聞、此間下官退出、

〔校〕了〔異本〕

〔花押〕  
止 22

